

研究課題名「非アルコール性脂肪性肝疾患における Basigin の関与」に関する情報公開

1. 研究の対象

2016年2月10日から2020年3月31日までに「消化器疾患と腸内細菌叢の相関」に登録され、肝生検の組織を提供した方

2. 研究目的・方法・研究期間

肝臓や腎臓は協調的に他臓器にエネルギーを補完・供給し、エネルギー恒常性(生物の持つ重要な性質で、体の中の変化や外部環境の変化に影響されずに、生体のエネルギー状態が一定に保たれる性質のこと)の維持に不可欠な臓器です。飽食の時代に先進諸国で大きな問題とされる糖尿病や非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)では、エネルギー恒常性の維持に不調をきたし、肝障害だけでなく慢性腎臓病(CKD)や慢性心疾患(CVD)といった重篤な臓器障害を引き起こします。

名古屋大学腎臓内科では、ベイシジンという蛋白に着目し研究してきました。ベイシジンは、エネルギー恒常性の維持に関与する蛋白です。しかしながら、ベイシジンが NAFLD 発症に直接関与しているのかは詳細に検討されていません。そこで、今回の研究では、名古屋大学大学院医学系研究科消化器内科学と腎臓内科学が協力して、NAFLD におけるベイシジンの関与を検討します。

(目的)

この研究の目的は、NAFLD の成因にベイシジンが関与しているか明らかにすることです。

(方法)

名古屋大学消化器内科教室では、「消化器疾患と腸内細菌叢の相関」という観察研究を行っています。「消化器疾患と腸内細菌叢の相関」研究で収集された肝生検組織を使用し、NAFLD 症例の肝生検標本におけるベイシジン発現を非 NAFLD 症例の標本と比較します。

(研究期間)

実施承認日から2025年3月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 「消化器疾患と腸内細菌叢の相関」研究で収集された肝生検組織
 - NAFLD および NAFLD の進行形である NASH (非アルコール性脂肪肝炎)と診断された方 5名、対照として 5名
- 「消化器疾患と腸内細菌叢の相関」の参加時に、診療上の既存情報として収集した以下の項目

- 患者一般情報(病名、年齢、性別、身長、体重、症状、既往歴、内服歴、生活歴、家族歴、身体所見)、肝生検時の WBC、RBC、Hb、Ht、Plt、TP、Alb、AST、ALT、LDH、Ch-E、 γ GTP、CRP、TG、LDL-C、HDL-C の値

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学

特任講師 加藤 佐和子

住所 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

TEL:(052)744-2192

研究責任者:

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学

講師 小杉 智規